

8月11日(木)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ
日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



**暑い夏こそドイツ音楽三昧
外連味の無い熱演!**

©N.Ikegami

8/10 日本フィルハーモニー交響楽団 入門者も本格派も歓迎のドイツ音楽プロ

猛 暑に負けない熱演が続く今年のサマーミュージックもついに最終盤。前楽は日本フィルだ。現田茂夫との顔合わせは結構レア。J.S.バッハからR.シュトラウスを経てブラームスと、ドイツ音楽を一足飛びに俯瞰する。

まずは弦楽合奏でバッハ《G線上のアリア》。他の2曲と同じ14型で、ゆったりと安定したバッハが客席を包む。コントラバス・パートを半分ずつ、弓奏とピッツィカートに分けて弾かせたのが効いていた。

目下無双状態のソプラノ森谷真理が歌ったR.シュトラウス《4つの最後の歌》はこの日のハイライト。陰影に富むシュトラウス晩年の歌曲は、表現力豊かな彼女にぴったりの世界。歌い出しなど、ソプラノにとっては低い音域の箇所でもボディのしっかりした声が響く。高域の弱声のコ



ントロールも見事。自在な歌に酔った。オーケストラが色彩豊かにうつろう。

現田が譜面台を置かず暗譜で指揮したブラームスの交響曲第1番。序奏からいきなり、かなり遅いテンポに意表を突かれる。朝比奈隆ばり! でも、遅くても重くない。指揮のアクションも、余計なものを削ぎ落とした動きで、これ見よがしな演出はなく好印象。作品そのものの均整の取れたプロポー



ションを味わった。シュトラウスともども、コンサートマスター田野倉雅秋のソロが堅実な秀演。

なお、オーボエのトップには新日本フィルの元首席(現特任首席)の古部賢一が。急病の奏者に代わって、なんと当日の朝、急遽ピンチヒッターに。ブラームスのソロなども甘くたっぷり歌って聴かせて大きな拍手を受けた。さすが!

(音楽ライター 宮本明)



左：マエストロ現田茂夫 右：森谷真理（ソプラノ）

お客様から

現田さんのプレトークが非常に面白く勉強になりました。シュトラウスのこの曲は36年前ウィーンの天井桟敷で聴いて以来です。とても美しい曲で今回も感動しました。アンコールも熱演!(60代・J.ナット)/ブラ1、かっこよかったです。感動しました。日本フィルのコンマスさん、熱くてよいですね。(40代・ルリ)/4つの最後の歌、CDなどで何度も聴いた曲でしたが、今日の演奏は本当にすばらしく感動的で、曲が終わってしまうのが惜しく感じられました。(60代・まっく)/G線上のアリアは、冒頭の音の入りからその世界観に引き込まれ、心が天に昇ってしまいうような心地よさでした。シュトラウスは、指揮者のプレトークのおかげでその世界観を楽しめました。ブラームスも素晴らしく、4楽章の終盤、弦が揃うところで鳥肌が立ちました。(20代・くら)/ヘッセの詩をオケ伴奏で、それもミュージックの響きで味わえるとは贅沢の極み。アンコールのハンガリー舞曲第4番のようなふ厚い弦の響きを出されるとホール自体が歓んで共鳴しているかのようなようです。(リヒャルト・マニア)/キビシイ暑さ!ミュージックへいい音を聴きに來るのが最高の夏の過ごし方だ。(?) /今日は還暦の誕生日でしたが、とてもすばらしい贈り物をいただきました。ありがとうございました。(60代・バースデイ60)

配信控え室から



サマーミュージックは配信も充実!
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。

ブラームスは難しいんです。映像で独特の“うねり”を表現するためにリモコンカメラはかなりタイト目に(寄りで)狙う必要があるんです。しかも3台のカメラを同時に操作しなければならぬ。きつとガンダムを操縦するより難しいです。(From リモートカメラM)



**上記レビュー公演のアーカイブ配信は
8/12(金)正午から開始!**

- 【出演】指揮：現田茂夫
ソプラノ：森谷真理 *
- 【曲目】J.S. バッハ：G線上のアリア
R. シュトラウス：4つの最後の歌 *
ブラームス：交響曲第1番
ハンガリー舞曲第4番
(アンコール)
- 【配信限定コンテンツ】
オープニングインタビュー：森谷真理 (ソプラノ)
休憩時インタビュー：信末碩才 (首席ホルン奏者)





注目！原田慶太楼presents「吉松隆」特集



指揮：原田慶太楼
©Claudia Hershner



チェロ：宮田大

クラシック音楽のコンサートでは、亡くなった作曲家の作品を取り上げることが大変多い。「名曲全集 第179回」は今を生きる、吉松隆氏の作品にフォーカスしたプログラムから成る点で、同シリーズのほかの回とは異なるが、邦人作曲家の作品を世の中に広めることをライフワークとする原田慶太楼氏の意気込みが感じられる公演だ。

1曲目の「チカブ」は、アイヌ語で鳥を意味する。短い3つの部分からなるが、続けて演奏され、鳥のさえずりが表現される。もともと

とフルートアンサンブルのために書かれたが、作曲家自身が2003年にオーケストラ用に編曲したものをこの演奏会で取り上げる。そして「チカブ」がオーケストラ用に編曲された年と同じ2003年に書かれた作品が、チェロ協奏曲「ケンタウルス・ユニット」。チェロ奏者を半人半馬のケンタウルスに見立てて名付けられたようだ。琵琶の音色、僧侶のお経、コーランの朗読などのイメージが音にこめられているという。ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで優勝以来、第一線で精力的に活動し続ける宮田大がソリ

ストを務める。

メインは「カムイチカブ交響曲（交響曲第1番）」。「カムイ・チカブ」は、アイヌ語で神の鳥という意味をもち、北海道知床に生息するシマフクロウをさす。そのアイヌの神の鳥は、作曲家本人の談によれば「人間界と神々の間の、森の最も高い木の上に止まって、人間を見下ろしている存在。」であり、この交響曲は「人間界と神々の間の世界」を描いた作品だという。

壮大な世界観を堪能する名曲全集第179回。マエストロ原田と東京交響楽団の演奏で楽しみたい。（事業企画課KF）

ミュージーザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 名曲全集第179回
9月25日(日) 14:00 開演

【出演】指揮：原田慶太楼（東京交響楽団 正指揮者） チェロ：宮田大

【曲目】吉松隆：チカブ op.14a

吉松隆：チェロ協奏曲「ケンタウルス・ユニット」op.91

吉松隆：カムイチカブ交響曲（交響曲第1番）op.40

【チケット】S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 当日学生券¥1,000（要問合せ）



パートナーショップのご紹介
エンジョイ！
川崎！！
Enjoy Kawasaki

早いもので今年のフェスタサマーミュージーザKAWASAKIも最終日！皆さま、パートナーショップはご利用されましたか？フェスタの音楽と合わせて、川崎の町も是非ご堪能ください。

本日は川崎駅の東口、川崎モアーズ7Fにある「ステーキ&ハンバーグのお店 いわたき」に行っ

ジューシーな
お肉を食べたい！

できました。粗挽きビーフ100%グリルハンバーグ(税込1,639円/サラダバーとスープ付)を、特典のドリンクバー半額と共に注文。ハンバーグは4種類のソースから選べるので、今回は淡路島産オニオンソースでいただきました。お肉の味がぎゅっと詰まった美味しいハンバーグでした。ジューシーなお肉が食べたいときは、おすすめです。最後まで頑張ります！（経営管理課 いよ）



J 川崎モアーズ 7F

ステーキ & ハンバーグの店 いわたき

※ パートナーショップ特典

お食事をご注文でドリンクバー半額

優待サービスを利用できる同伴者は4名まで

コンサートと一緒に
もうひとつのお楽しみ！

PARTNER SHOP

↑サービス対象店舗はこのPOPが目印！
スマホからクーポン券を提示するだけ！
クーポン券は7/23～8/11まで
何度でも利用できます。
公演がない日でももちろんOK！

掲載店一覧はこちら

フェスタサマーミュージーザ公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージーザ
#夏ジャン
で検索 & 投稿
お待ちしております！



Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki



去年配信を楽しんでいたメンバー

「コンサートはもちろん生で聴きたい！と思っていました。動画配信サービスに、今やたくさんの方々がアップされていますが、じっくりそれを聴いて楽しむ、ということはいまありませんでした。」

けれどコンサートの開催自体が危ぶまれるようになった昨今。配信でコンサートを聴けるありがたさが心底身に染み入っています。昨年、私は育児休業中で、自宅でサマーミュージーザを楽しんでいました。様々なオーケストラの演奏をBGMに昼寝する赤子。何と優雅なひと時でしょう。今年は少しでもたくさんの方に配信の楽しさ、良さを味わっていただくべく、SNS等のご紹介に力を入れていきます。アーカイブ配信は8月末まで。来場された方も、そうでない方も、ぜひお楽しみください。

（去年配信を楽しんでいたメンバー）

日刊サマーミュージーザ
Hobo Nikkan Summer Muza

スタッフ日誌